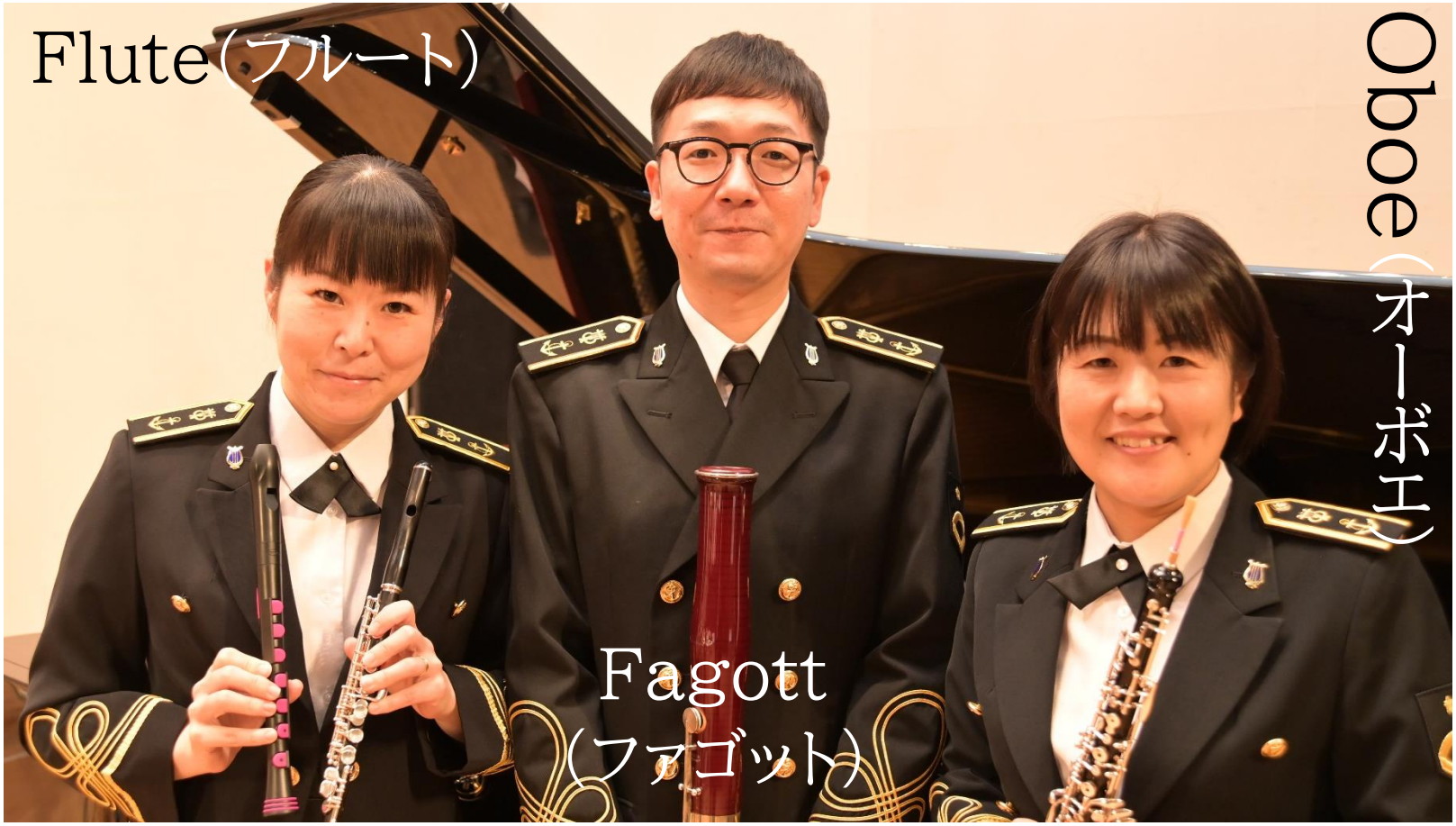
「フルート」は、動物の骨に穴をあけて吹いたのが始まりとされている大変歴史の長い楽器です。吹奏楽ではメロディー楽器として活躍するほか、鳥のさえずりや、キラキラした情景をイメージさせる場面で演奏されることが多くあります。
「ピッコロ」は、イタリア語で「小さい」という意味で、大きさはフルートの半分の長さです。吹奏楽で使用する管楽器の中では最も高い音を奏でることができるため、合奏の中でも大変目立つ存在で、ここぞという時に輝きのある音を響かせます。

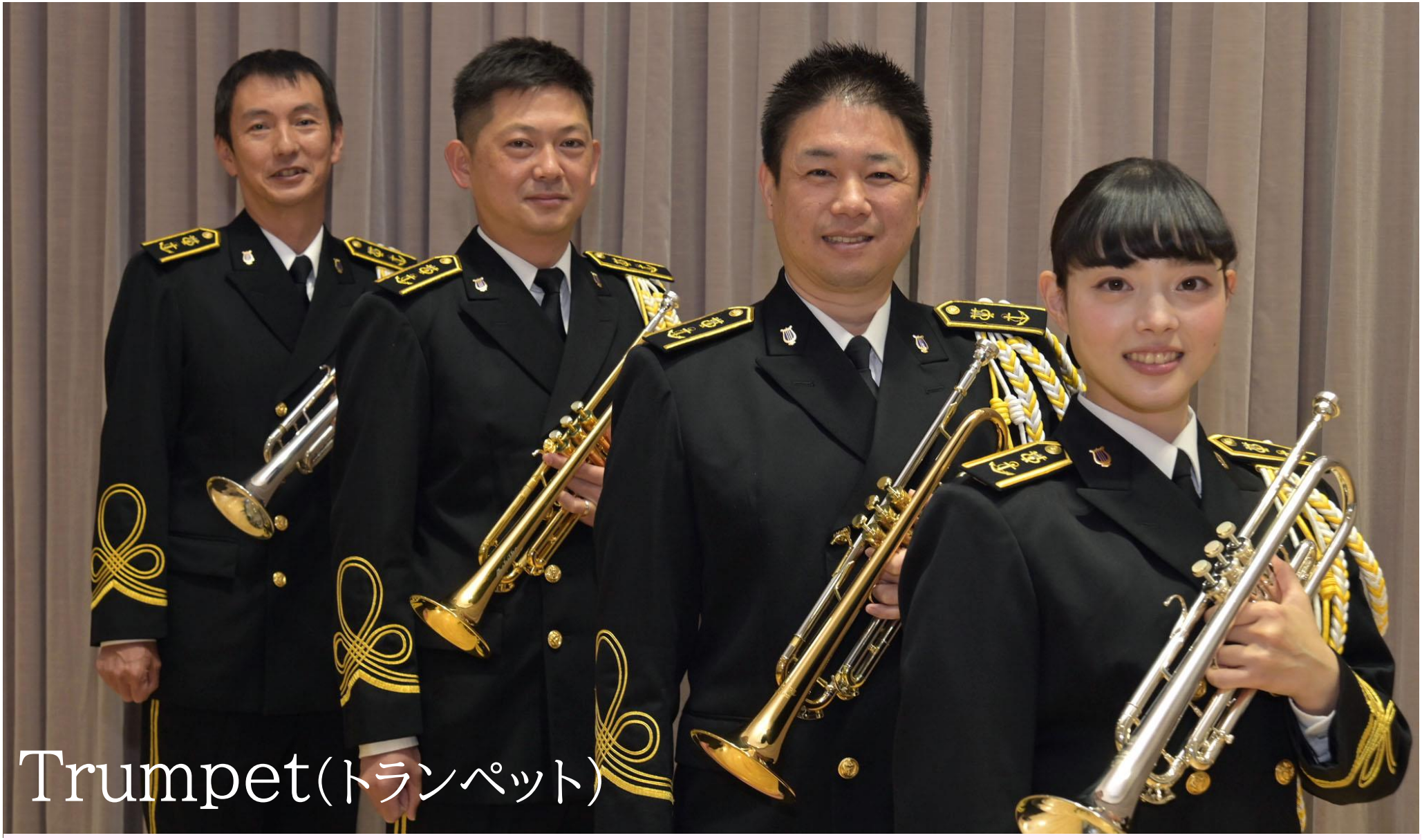


葦（あし）という植物の茎を２枚重ねにした「リード」をくわえ、ストローのような小さな吹き口から息を吹き込み、音を鳴らしています。子供の頃によく遊んだ「草笛」と原理は同じです。オーボエ奏者はリードを手作りする人が多く、リードの良し悪しで吹き心地が大きく変わることから、いつも専用のナイフや定規を持って良い音を追求し奮闘しています。吹奏楽ではフルートと並んで高音域を担当し、悲しげな美しい音色から輝かしい明るい音など、幅広い表現力を持っています。

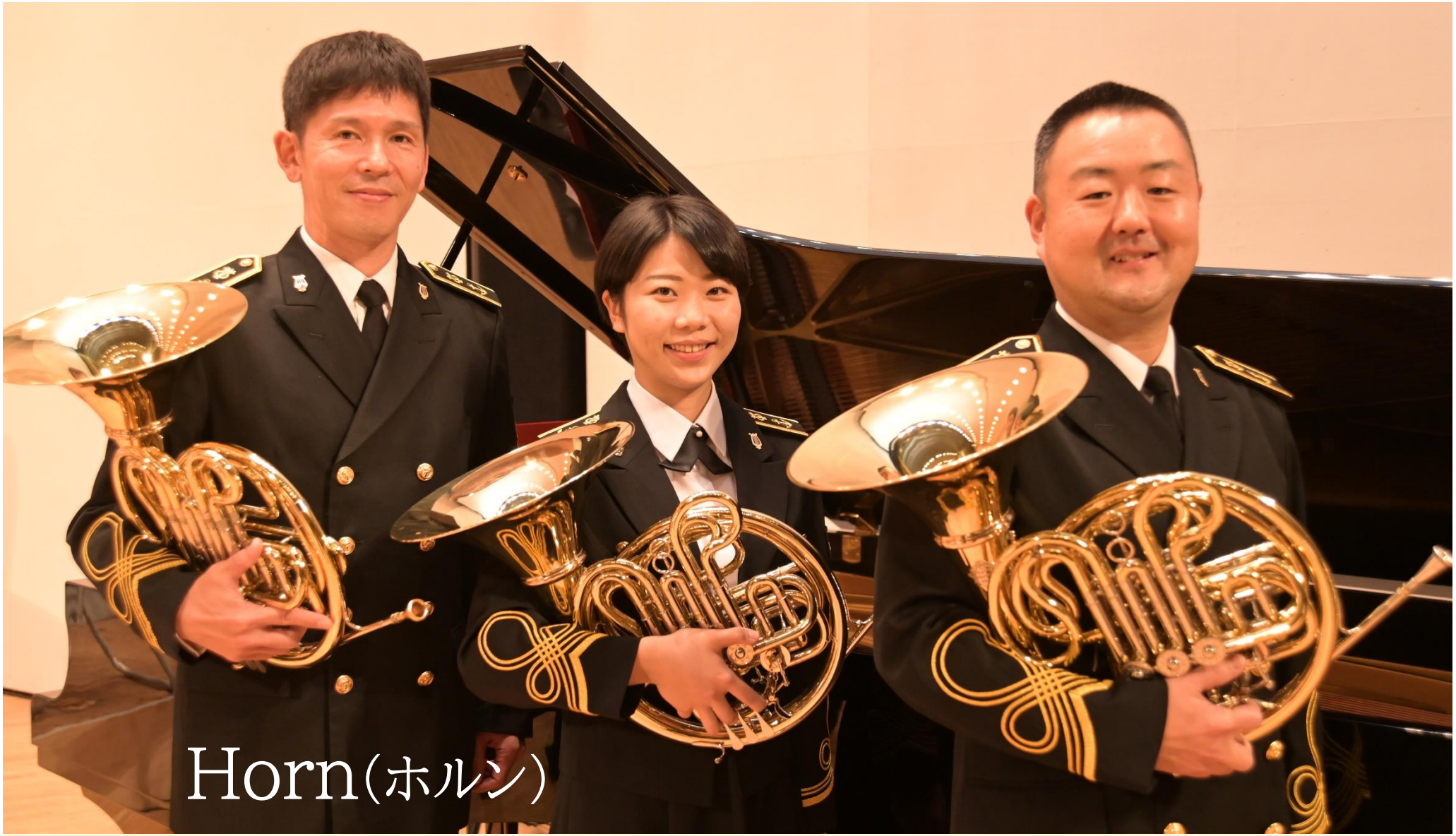
オーボエと同じく葦を２枚重ねにしたリードを振動させて共鳴させる木管楽器です。ファゴットの特徴は何といってもそのスリムなフォルムでしょう。全長は１３５センチほどありますが、実は管が二つ折りになっていて、全部伸ばすと２６０センチほどになるそうです。それ故、音域は低く木管楽器の最低音域を担っていることが多いです。独特な音色が持ち味で、柔らかく艶やかな音も奏でられますが、とぼけたようなコミカルな音も得意です。

今から約２５０年前にフランスとドイツで開発され、その後ヨーロッパ各地に広がり改良されて現在の形になりました。オーボエなどと同じ、葦（あし）という植物の木の板を吹き口に１枚固定し、それを息で振動させ、管が共鳴することで音が鳴ります。吹奏楽では、一番人数の多い楽器で、クラリネットセクションでバンドの音色が決まるといっても、過言ではありません。その音色は、人の声に似ていると言われることが多く、木管楽器ならではの柔らかい音が魅力的です。

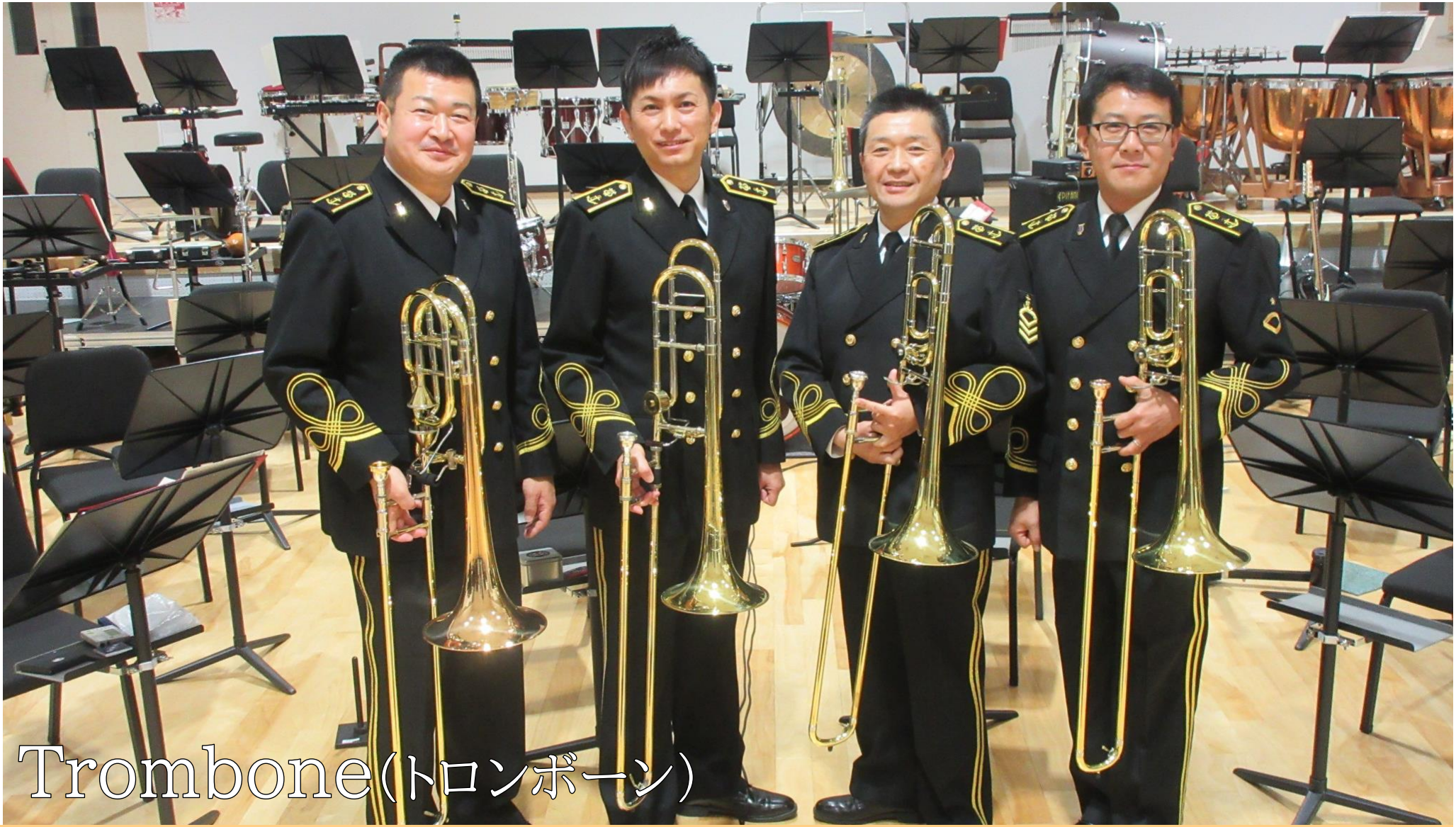
吹奏楽の中で使われる楽器の中では珍しく、唯一発明した人が分かっている楽器で、ユーフォニアムと並び近代の楽器です。１８４０年頃「木管楽器の良さと金管楽器の良さを合体した楽器が作れないか」と考えた、アドルフ・サックスがパリで発明しました。高い音の出るソプラノサクソフォーンから、低い音の出るバリトンサクソフォーンなど種類は豊富で、サクソフォーンだけで奏でるアンサンブルは極上の響きがします。皆さん、ご存じのように、煌びやかなその音色は吹奏楽でもジャズでも大活躍です。



ルーツは戦いの場面で先頭に立って味方に指令を送るための「信号ラッパ」と呼ばれるただ管をぐるぐる巻いたものでしたが、その後音階が吹けるようにピストンが付き、現在の形まで改良されました。吹奏楽では花形楽器といわれ、輝かしい音色でメロディーやファンファーレを奏でるほか、演歌など哀愁をおびた渋いメロディーを吹くのも得意です。
またジャズでも大変活躍する楽器です。



もともとは、貴族が狩りをするときに、馬の上から後ろにいる仲間に合図を出すために使われていました。そのため、ベルが後ろ向きになっています。また、ぐるぐる巻きの管は馬の手綱を操作するために、体にかけられるようにしたことが始まりと言われています。吹奏楽ではハーモニーを担当していますが、金管楽器らしい勇ましいメロディーや木管セクションのアンサンブルに混ざって響きの厚みを出すなど、どの楽器とも相性抜群です。



１５世紀中頃から、宗教的な音楽（主に教会）で、旋律を支える役目として演奏されていました。この楽器の最大の特徴は、伸縮自在のスライドです。他の管楽器はピストンやキーをおさえて音を変えるのに対し、トロンボーンはスライドで管の長さを変化させて、音の高さを変えています。合奏の中では主にハーモニーを担当していますが、トロンボーンパートが全員で同じ旋律を奏でるときには、全てをなぎ倒すような強力な響きがします。

迫力のある見た目が特徴のテューバ。大小様々なサイズはあるようですが、吹奏楽で使用している楽器は重さ１０キロもあり、全ての管を伸ばすと９ｍ６０ｃｍもあるそうです。吹奏楽では常にベースラインを担当している「縁の下の力持ち」のような存在で、テューバ奏者は旋律を奏でることより、バンドを支えることを生き甲斐としている人も多いようです。でも実は、メロディーも得意なんですよ。

「よく響く」という言葉が語源になっている楽器で、その名の通り暖かくまろやかな音色と包み込むような豊かな響きが特徴です。サクソフォーンと同じく近代の楽器で、金管楽器でありながら、木管楽器のような早い動きも得意とします。主に中音域を担当しており、吹奏楽の中ではメロディーや対旋律、そしてベースラインも担う、言わば「何でも屋さん」のような存在です。

日本語では「打楽器」と呼ばれ、叩いて音を出す楽器全般のことをさしています。種類が大変豊富で、その数はゆうに１０００種類を超えていて、とても数えきれないほどです。打楽器奏者は、木琴や鉄琴など鍵盤でメロディーを奏でたり、太鼓などは皮を叩いてリズムを出したり、鐘をついたり、ドラムを叩いたり、とにかくいろんな楽器を演奏できなければならないマルチプレイヤーです。合奏の中では、主軸となるリズムを刻むほか、情景が目に浮かぶような効果音を演出するなど、とても重要な役割を担っています。